

## 「JENESYS2.0」中国建築設計研究院訪日代表団

### 参加者の感想（抜粋）

○ 建築産業の近代化と耐震減災をテーマとした今回の訪日を通して学んだこと、感じたことは数知れないが、以下の2点にまとめられると思う。

1つは、専門分野について。8日間で約20件の視察や交流を行い、建築システム、建築基準、建築技術、工事について、総合的に学ぶことができ、専門分野に対する理解が大幅に引き上げられた。帰国したら、学んだ内容を整理し、実践に役立てたい。ゆくゆくは中国国内での研究と実践で積極的に活用し、技術開発と成果のアウトプットに役立てたいと思う。事業視察や企業訪問でも、日本の建築関係者たちのプロフェッショナルな仕事ぶりに感銘を受けた。集中力が高くて効率が良く、非常に正確。仕事には積極的に取り組み、チームでの協調性も高い。これは国籍に関係なく、建築に従事する者ならば誰もが備えているべき姿勢だと思う。帰国したら、日本で感じたプロの精神を周りの建築関係者に伝えたい。

次に、交流プログラムについて。訪問プログラムはどれも秩序だっていて、手違いがない。日本政府と関連機関のご尽力と、関係スタッフの献身的な仕事ぶりが見て取れた。同時に、彼らはとてもフレンドリーで、かつ謙虚さもあり、素晴らしいと思った。私たちが学ぶべきだと思う。

日中友好の歴史は長い。私たちの代も、必ず子孫にそれを受け継いでいこう。両国の建築関係者が心を1つにし、都市建設を進め、社会の発展、文明の繁栄に貢献していけると信じている。

○ 8日間という短い訪問も、もうすぐ終わろうとしている。最も印象深かったのは、物事に取り組む際の日本人の慎重な態度と技術理念だ。

今回、日建設計、三菱地所レジデンス、パナソニック、大阪市・八尾市・松原市環境施設組合舞洲工場、積水ハウス、大阪市立阿倍野防災センターを視察に訪れた。これらの所で共通していた特徴は、都市環境への影響や、持続可能な発展を考慮しており、人に優しいということ。各分野の研究を通して、都市と社会全体の融合を進めている。

短い8日間だったが、日中友好会館や関連業界で先端に行く企業と交流し、彼らの物事に取り組む姿勢、とりわけ時間厳守の習慣と誠意ある対応に感動した。こうした態度は、日本人が技術的に進んでいる大きな要因だと思う。

日本の建築関連の研究で基となっているのは、「人に優しい」という理念だ。人が利用することを想定した使用感、建築物と都市全体の調和のとれた発展、環境の保護などを重視し、建築の持続可能な発展を目指している。

帰国したら、日本で見たこと、聞いたこと、感じたことを同僚や友人、家族らに伝えたい。また、今回の訪問で両国の関連分野の交流が強化され、具体的な事業視察を通して、進んだ技術と理念を学ぶことができるよう願っている。

○ 今回の活動に参加できてとても嬉しく思う。日本の進んだ住宅産業化に関連する施設を視察できたほか、総合商業施設の視察、さらに伝統文化の参観や交流など、内容がバラエティに富んでおり、数多くのことを学ぶことができた。

最も印象深かったのは、日建設計への訪問とプロジェクトの紹介だ。東京駅八重洲口の総合開

発プロジェクトにおいて、同社の設計者たちは、未利用容積の移転や公開空地の設置などにより、区域内の既存の建築物と都市の関係を大胆に処理していた。複雑な人の流れの分散、緑化空間の譲渡、オフィスビルの建設と運営のバランスといった具体的な制限を解決し、現代的で、シンプルかつエネルギーに満ちた新しい都市のイメージを創り出しており、一方の丸の内側と引き立て合って、完璧に融合させていた。

また、日建設計本社を訪問した際、日本の建築士が手作りの模型やデッサンを使ってディスカッションしているのを見て、これこそ私たちがいつも設計作業で忘れがちな部分だと思った。このように、具体的に配置の検討と話し合いを行わなければ、良い設計はできない。

もちろん、全日程を通して印象に残っていることは他にもたくさんある。パナソニックセンター東京・パナソニックリビングショールームで見た先進的で人に優しい技術や理念、優美な日本式の庭園設計、阿倍野防災センターで体験した楽しみながら学べる防災情報の伝え方、大阪市・八尾市・松原市環境施設組合舞洲工場の美しくメルヘンチックなゴミ処理環境など、中国の友人たちに伝えたいと思う活動内容ばかりだった。

こうした活動が続いていくことを心から願っている。また、機会があれば日本に来て、省エネや排出削減、高齢者向け住宅に関する先進技術や理念について知りたいと思う。

○ 8日間にわたる、緊張しつつも充実した日本での視察の旅が終わりを迎えようとしている。振り返ってみると、この数日間で忘れがたい思い出ができた。8日間の活動を通して日本人と良い友人になり、学習や交流を通して日本の文化、生活、科学技術に対する理解を深めることができた。

この活動に参加する前、日本について知っていることと言えば、先進国だということくらい。視察を通して気づいたのは、先進国であるというのは、科学技術や経済、文化といった部分だけに表れるのではなく、もっと重要なのは、国民全体の文化的レベルに表れるということだ。人と人の和やかで礼儀をわきまえた関係、災害と向き合う社会的責任感、伝統文化の継承と発揚に対する各方面のバックアップなどは、中国人の誰もが学ぶべきだ。

専門分野の視察で最も印象に残っているのは、東京駅周辺の二次開発プロジェクトだ。良い建築物を作るために最優先すべきは、いかにきらびやかな空間を作り出し、商業運営を成功させるかではなく、いつ何時も人を第一に考え、すべてのプラス要因を引き出して、市民により多くの交流の場を提供すること、そして、環境保護や低炭素社会の実現を考え、責任感を持って設計をすることだ。

帰国後は、こうした気づきを友人や同僚たちに伝え、彼らにも私と同じように、友好的で平和であり、かつエコで健全な日本を感じてもらいたいと思う。

○ 今回の訪問を通して、日本人の生活や公務員の仕事の状況について、そして耐震・免震対策、工業化住宅、高齢者向け住宅、地下ショッピングストリートなどの建築について、さらに都市の総合的な再開発プロジェクトについて、一定の理解を得ることができた。なかでも一番興味深かったのは、日本の文化、つまり大和民族の伝統体験だ。和風旅館での浴衣体験を通して、他人に対する日本人の礼儀正しさを感じた。現代の中国の若者もこれを見習うべきだ。とても感動したのは、スーパーで買い物している時のこと。買い物客で混雑した店内でも、日本人は誰かにあたるたびに「すみません」とお詫びする。中国からの個人旅行者は傍若無人でマナーの悪さが目立

つが、これもある種、国民の教育レベルの違いを表している。

専門分野については、日本の建築の減震・免震技術、および都市部の避難場所や避難建築の設計に非常に注目している。阿倍野防災センターの視察では、日本では子供の時分から防災教育を施し、震災時や震災後に混乱することのないように備えているのだと分かった。このほか、三菱地所レジデンスの免震住宅では、日本の免震技術は応用がかなり進んでおり、国民にも広く受け入れられていることが分かった。中国国内の状況とは大きく違っている。

短い訪問だったが、友人たちに伝えたいことがたくさんある。少なくとも、第二次大戦以来、日本に対して抱いていた好ましくない見方は変わった。現在の日本はオープンで、人々は優しく友好的だ。両国間の民間交流が緊密に行われ、経済や文化の交流を促進している。両国民の友好が続いていくことを、心から願っている。

○ 8日間の日本の旅は短く貴重な経験だった。今回初めて日本を訪れたが、建築関連の視察を通して、日本の国土交通省、日建設計、三菱地所レジデンス、パナソニックといった施設について詳しく理解することができた。また、建築の産業化、耐震防災など専門的な分野においても多くを学ぶことができた。日本人の綿密な仕事ぶり、新機軸を打ち出していく仕事への取り組み方、緻密な考え方、心のこもったサービスにも感銘を受けた。また、日本が、街の様相や歴史・文化遺産、環境保護、高齢者向け住宅、ヒューマンケアを重視していることや、社会全体で何か展開させる際には、あらゆる段階で異なる角度から専門的かつ厳格なチェックを行っており、その徹底ぶりに、興味と尊敬の念を覚えた。専門分野をもっと学び、日本の進んだ設計理念や新しいアイデアを生み出す物事の考え方を中国に持ち帰りたい。そして、同僚や業務上のパートナーたちに伝え、中日双方の建築業界における交流を強化したいと思う。

建築以外にもたくさん収穫があった。今回の活動を通して、日本の文化、芸術、街の様子を感じることができた。また、企業や関連各所の視察で触れた日本人の友好的な態度にも感動した。帰国後は、見聞きしたことを友人らに伝え、中日交流を促進する架け橋になりたい。

最後に、この度の活動に尽力下さった各界の皆様に深く感謝を申し上げたい。